

2025年3月10日
東芝プラントシステム株式会社

使用済タイヤの精密熱分解パイロット実証プラント建設 **受注に関するお知らせ**

東芝プラントシステム株式会社（本社：神奈川県川崎市、取締役社長：小西 崇夫、以下「当社」）は、このたび、株式会社ブリヂストン（本社：東京都中央区、取締役代表執行役 Global CEO：石橋 秀一）の関工場（岐阜県関市）における使用済タイヤ精密熱分解パイロット実証プラント建設を受注いたしました。

本プラントは、株式会社ブリヂストンがサーキュラーエコノミーの実現に向けて 2022 年より進めている使用済タイヤのケミカルリサイクルの取り組みとして、使用済タイヤを精密熱分解して分解油や再生カーボンブラックを回収し、タイヤ原材料として再利用するケミカルリサイクル技術の社会実装に向けたパイロット実証プラントです。

当社はかねてより、「カーボンニュートラル」と「サーキュラーエコノミー」の実現に貢献すべく、廃棄物の再資源化への取り組みとして、スチレンモノマー還元装置の開発や廃油リサイクル設備などの事業化を進めております。本プラントの実施計画にあたっては、当社の持つ技術力や実績、経験を活かし、お客様とともに検討、共創を重ねてまいりました。

今回の実証プラント建設では、計画段階でのプラント配置を始めとするエンジニアリング、土木建築工事、各種機器・設備の調達、据付工事、試運転などを EPCC※として担い、2025 年 11 月に着工、2027 年度に引渡しの予定です。

当社は、国内外において数多くのプラントを EPCC で建設しており、これまで多種多様な業界で培ってきた幅広いノウハウ・技術力をもとに、お客様に寄り添い、価値を提供してまいりました。当社はこれからも、強みである EPCC に、お客様視点に立った価値を掛け合わせ、人々が豊かな生活をおくるためのインフラをカタチにし、提供してまいります。

※EPCC：Engineering（エンジニアリング）、Procurement（調達）、Construction（建設）、Commissioning（試運転）の略

完成イメージ



【パイロット実証プラント概要】

所在地：株式会社ブリヂストン 関工場 岐阜県関市新迫間 20 関工業団地内

最大処理能力：使用済タイヤ 7,500 トン/年